

資料：平成17年度研究評議会での主要な意見・要望とそれに対する対応

1. 研究の評価

○成果のチェック&アクションをどのように進められるのか？

対応状況

平成17年度においても本所・支所で評議会を開催し、委員各位より多くの意見をいただき、運営に反映させるべく全所運営会議で議論を行った。また、研究所の成果の受け渡しに係わる国民や技術者との双方向コミュニケーションについては、メールマガジンシステムを正式に立ち上げ、月1回の情報の発信を開始した。会員数は現在のところ300名弱であるが、WEBサイトで公募するなど購読者を増やすよう努めている。さらに、事後評価のためのフォローアップレビューについては、中期計画期間の成果選集や交付金プロジェクトの成果集などを用いて、成果のアウトカムを中心としたアンケート調査を行うことを計画し、成果選集の作成を終えたところである。

成果のチェックとアクションについては、以上のような活動を通じて幅広く各界からの意見をとり入れ、それらの内容を所員に徹底するとともに、要望に応えうる活動内容を検討してさらに活動の幅を広げていく予定である。

2. 研究課題の設定

○森林セラピーはこれからどのように進んでいくのか大変関心が高い事柄である。

対応状況

森林総研による「森林のセラピー効果」の科学的評価手法の開発が進んだ事を受け、医療や癒しの場としての森林の活用を広く普及・定着させる事を目的に、森林セラピー基地・ウオーキングロード認定事業（林野庁、(社)国土緑化推進機構、(財)日本ウエルネス協会）が平成17年度から開始されている。候補地での生理評価実験は、手法開発を行った森林総研の支援の下に進められており、平成18年4月に計10箇所が認定を受けている。本事業に対する自治体の関心は高く、候補地として登録された団体を中心に、「森林セラピー基地全国ネットワーク協議会」が結成されており、今後、認定件数の増加とともに、森林セラピーを活かした地域振興のネットワークの輪が広がっていくことが期待される。森林総研としても、学術研究の立場から、候補地での評価実験を通じ科学的データの集積を進め、心理指標と生理指標との関係解析や、セラピー効果の高い森林の特性の解明等に取り組む予定である。

○今後、人文科学的な研究もして頂きたい。

対応状況

人文科学的観点からの研究の重要性は十分認識しており、第二期中期計画では森林セラピー機能の有効活用技術の開発や、里山の保全的管理のための社会制度のあり方の解明、森林を利用した環境教育システムの開発、地域資源を活用した地域連携による山村振興方策の解明、等の課題において、森林と人との関係を分析の視点に加えた研究推進を図っている。

○森林総合研究所と研究の連携をもっと取りたいという意見が多い。高度化事業を森林総合研究所と一緒にしたいという意見がある。各ブロックごとに、外部資金獲得のための交流会などを考えて欲しい。

対応状況

公立林業試験研究機関との連携については、本所・支所において各林業試験研究機関連絡協議会の運営に積極的に関わり、活性化を図った。特に、関東・中部林業試験研究機関連絡協議会においては、17年度に立ち上げた具体的な研究課題に取り組む新たな研究会活動の成果として、家族経営型のきのこなど特用林産物生産技術の開発についての研究を目的とする「関東中部の中山間地域を活性化する特用林産物の生産技術の開発」の課題が農林水産研究高度化事業に応募・採択されるなどの成果を得たところである。

○5年後どうするかという、時間の概念がないと、絵に描いた餅になる。山村衰退が進むと研究すら出来なくなると思う。近未来を見据えた戦略を作るべきである。

対応状況

林野庁の「森林・林業・木材産業分野の研究・技術開発戦略」は平成18年9月に改訂された「森林・林業基本計画」に即して改訂されようとしており、行政の戦略に対応した取り組みを図るべく、林野庁と連携している所である。また、森林総合研究所内に「中長期の森林利用のあり方（素案）作成作業部会」を立ち上げ、森林のあるべき姿と研究のあり方を検討していくこととしている。

○資料8の絵は良いと思う。基本的に認める。ただ、林業の活性化が見えない。持続的に国産材を使っていこうという要望が強い。ウをアに変えた方が良いと思う。

対応状況

林業の活性化については中期計画の中でも大きく取り上げているところであるが、平成18年度に改訂された「森林・林業基本計画」における重点化に対応するべく、「森林・林業・木材産業分野の研究・技術開発戦略」への取り組みについて林野庁と協議しているところである。

○長中期の研究課題をどのように進めるかということを考えて欲しい。

対応状況

中期計画期間に対応する期別の目標を定め、研究を遂行している。このうち基礎研究に関しては、2分野に、4重点課題を配し、研究の深化、科学技術の高度化のために中長期的な視点に立って研究を推進している。また、長期的な観測業務、データベース化による情報の整備等を基盤事業として9事業実施している。（補足資料参照）

○資料8：中期計画の2頁目、「反映」と書いてある。どのように反映させるのかということを書いて欲しい。民間、民有林の発展のために反映させて頂きたい。

対応状況

具体的事項について、個別に成果の反映状況を評価していただけるようにする。また、行政機関、民有林等、成果の受け渡し先ごとに階層別に広報活動をおこなう目的で、これを定めた「森林総合研究所の広報活動方針」を作成した。

補足資料

2 分野

- ・新素材開発に向けた森林生物資源の機能解明
- ・森林生態系の構造と機能の解明

4 重点課題

- ・森林生物の生命現象の解明
- ・木質系資源の機能及び特性の解明
- ・森林生態系における物質動態の解明
- ・森林生態系における生物群集の動態の解明

8 研究課題群

- ・遺伝子の機能及びその多様性、環境ストレス応答機構等樹木の生命現象の解明
- ・きのこ類及び有用微生物の特性の解明
- ・多糖類等樹木成分の機能及び機能性材料への変換特性の解明
- ・間伐材・未成熟材等の基礎材質特性及び加工時の物性変化の解明
- ・森林生態系における物質動態の生物地球化学的プロセスの解明
- ・森林生態系における水・二酸化炭素・エネルギー動態の解明
- ・森林に依存して生育する生物の種間相互作用等の解明
- ・森林生態系を構成する生物個体群及び群集の動態の解明

10 研究項目

- ・遺伝子機能解析に基づく樹木の生命現象の解明
- ・森林植物の遺伝子の多様性及び森林生態系における多様性維持機構の解明
- ・きのこ類の生理的特性と有用微生物の分解代謝機能の解明
- ・樹木成分の機能及び変換法の解明
- ・人工林材の加工過程における材料特性の変化の解明
- ・森林の物質動態における生物・物理・化学的プロセスの解明
- ・森林生態系における水・エネルギー移動プロセスの解明
- ・生物多様性と生物間相互作用のメカニズム解明
- ・樹木加害生物の生物学的特性の解明と影響評価
- ・森林生物の機能と動態のメカニズム解明

13 プロジェクト

- ・スギ雄性不稔の品種改良と大量生産技術の確立
- ・果樹等における花成制御技術の開発
- ・放射線による樹木のDNA損傷と修復機構に関する研究
- ・ポプラ等樹木の完全長cDNA塩基配列情報の充実
- ・細胞壁マトリックス糖鎖の構造と生合成機構の解明
- ・形態生理機能の改変による新農林水産生物の創出に関する総合研究
- ・生物機能の革新的利用のためのナノテクノロジー・材料技術の開発
- ・森林流域の水質モニタリングとフラックスの広域評価
- ・根の生理指標を用いた土壌酸性化に対する樹木への影響評価
- ・森林の縮小・分断化が小型哺乳類個体群の分布と遺伝的多様性に及ぼす影響の解明
- ・阿武隈山地における持続的森林利用オプションの評価

- ・地衣類の遺伝的多様性を活用した大気汚染診断
- ・東南アジア熱帯林の栄養塩利用および炭素固定能の評価と保全

7 基盤事業（観測）

- ・病虫害発生情報
- ・森林水文モニタリング
- ・多雪地帯積雪観測
- ・森林の成長・動態に関する長期モニタリング
- ・収穫試験地における森林成長データの収集
- ・木材標本の生産と配布およびデータベース化
- ・森林生態系の長期モニタリング

2 基盤事業（データベース）

- ・森林昆虫のデータベース化
- ・気象災害データベース